

令和3年度 県立水戸南高等学校（定時制・夜間制）自己評価表

目指す学校像	「生徒一人一人のニーズ・スタイルを尊重し、学校本来の大切さを日々感じる高校」 単位制で作る自分の時間割、生活スタイルで選べる3つの課程、手厚い指導体制を生かしたセルフプロデュースの学習を実現する。 J R水戸駅から徒歩圏内の利便性と、緑に囲まれた閑静な環境を生かして、持続可能な心静かな学びを実現する。		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
○一人一人の状況に応じてきめ細かな進路指導を行った。しかし、勤労観や職業観が十分身に付いていない生徒がまだまだ多く、求人はあるが、進路希望が実現しにくい状況である。 ○基礎学力向上のための実力テストを実施したり、授業展開を工夫したりするなどして義務教育段階での学習内容の確実な定着・向上に努めた。しかし依然として学習意欲や基礎学力が不足している生徒が見られる。また学習の習慣が身に付いていない生徒も多い。 ○各担任等が生徒ときめ細かなコミュニケーションをとることにより生徒理解が進んでいるが、依然として、怠学、基本的な生活習慣・規範意識や公共心に欠ける等、様々な問題を抱えている生徒が見られる。 ○クラスマッチや文化祭など種々の学校行事を工夫して実施しているが、望ましい人間関係を築く力や社会人として必要とされる態度を育成する特別活動を更に充実させる必要がある。	職業観を育むキャリア教育の推進	・教育活動全体を通じ、組織的・系統的なキャリア教育を更に充実させ、卒業生の進路未決定者を30%未満に縮減する。（昨年度40%） ・進路実現に向けて主体的に考え、取り組む態度を養うため、進路だよりを年3回以上配布し、進路に関する情報提供に努める。 ・進路面談を年4回実施し、個々の生徒へのサポートをより充実させ、きめ細かに一人一人のキャリア発達を支援する。 ・ジョブカフェやハローワーク等の外部機関と連携して、見学会や講演会を実施する。また、生徒の進路行事出席率50%以上を目指す。	
	基礎的・基本的な知識・技能の習得とICTを活用した分かりやすい授業をこころがけ、思考力、判断力、表現力等を育む個に応じた授業の工夫	・課題の確認を通して生徒一人一人の学習状況を把握するとともに、学習形態や指導方法を工夫し、個に応じたきめ細かな学習指導を行う。 ・進路希望実現に向けて年3回の実力テスト【コンテスト形式】を実施し、一般常識・基礎学力等の定着を図る。 ・ICTを活用した分かりやすい授業を心がけ、生徒が達成感を得られる授業の工夫と、個に応じた体験的・問題解決的な学習の促進を目指す。	
	生徒指導及び道徳教育の推進	・外部機関やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等と連携を図りながら、教育相談体制を充実させ、種々の課題を抱えた生徒に対して共感的理解に立って各種支援を行う。面談希望者には100%担保する。 ・外部機関との連携を充実させ、教員集団の共通理解のもと組織的・計画的な生徒指導を行うことで、基本的な生活習慣を確立させる。また、「道徳」と「道徳プラス」の授業をさらに充実させることにより、道徳的な判断力や実践意欲と態度の育成を図る。 ・「いじめ防止基本方針」に基づき、いじめの防止に努め実態把握や対応を適切に行う。「生活アンケート」の回収率100%を目指す。	
	特別活動の充実	・生活体験発表会や晩秋祭に向けホームルーム活動や生徒会活動を活性化させ、望ましい人間関係を形成するとともに自己肯定感・自己有用感を育む。 ・行事への主体的な取組により、協力して諸問題を解決しようとする実践的な態度を育て、いじめを排除する空気をもった生徒集団を構築する。 ・南高スピリットアッププログラムを効果的に活用するなど学校行事を充実させ、集団への帰属意識や連帯感を深め、公共の精神を養う。 ・定通体育大会や生活体験発表会等への参加を奨励し、活動者数の増加に努める。生活体験発表会は10名以上の参加を目指す。 ・キャリア・パスポートを活用し、自らの学習状況やキャリア形成を振り返りながら自己実現につなげていく。	

			・校外のボランティア活動の積極的な参加を推奨し、地域社会のつながりとともに、一人一人の自己肯定感を高める。				
		教職員の資質の向上 (働き方改革)	・生徒たちが予測困難な社会を生き抜く力を育成するために、教職員が学び続ける意欲をもつとともに、チーム学校による共同を推進し、資質の向上を目指す。 ・I C T活用やスクラップ・アンド・ビルドによる事務作業等の負担軽減や勤務時間の在り方について意識改革を図る。				
		情報発信による学校への理解促進	・ホームページや広報誌、学校パンフレット等のP R手段を十分に活用して、保護者・地域に対し、積極的に情報を提供する。 ・学校評議員や中学校等の意見を参考にしながら教育活動を展開する。 ・学校公開を計画的に実施して、本校に対する理解促進を図る。				
三つの方針		具体的目標			評価	次年度（学期）への主な課題	
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	(長期的目標) 【水戸南高校の学びの場で、「これから」の自分に向き合う資質・能力を身に付けて、困難に負けない自分を創る】 ○いつでも「これから」（未来）を意識し、「得たこと」よりも「やり続けること」に価値を感じながら、学び続けていくことの楽しさを資質として習得する。 ○世の中の成り立ちを知り、面白いと感じる分野と出会い、自分にプラスをもたらす人に出会い、自分の秀でた部分に出会い、高校時代に第1歩を踏み出す。 ○困難を乗り越えてきた経験も自信に変え、何度でも立ち上がれる人になる。「今までどおり」が通用しない未来において立ち上がる力を磨く。この場所で過ごす「高校生活の日々」の大切さが将来の自分の糧になる。 ○「自分にはできない」とあきらめず、「今はまだ、できないだけ」ととらえ、一人一人が目標を実現可能と信じ、自分の「学びに対する好奇心」に火を点ける。 ○学びの中で「自分にはどのような力があるか」と自己探究し、「将来何になることができるか」、「なりたい自分になる」など、自分の強みと本来の個性を表現できる資質を養う。 ○個性と多様性を大切にする自由さの中で、自立と自律の能力を磨く。自分の目標と今の自分がどう違っているかを見極めて、自分で修正できる力を身に付ける。					
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	(中期的目標) 【単位制の特色を最大に活かした水戸南高校の学びで、自分の意思と選択で学べる時間割を提供し、一人一人のニーズに応える】 ○「なりたい自分になるための学びの場づくり」のため、単位制の特色を活かす。学びの積み重ねによって3年間で卒業でき、多様な教科科目、個別対応も含んだ発展的学習を可能にする。 ○全体的な効率よりも、一人一人の興味・関心・進路希望による科目選択が優先される水戸南カリキュラム。自分ペースの学びを実現し、生徒の個々に合わせた創造的・挑戦的な学びを展開する。 ○生徒主体のカリキュラムにおいて、自立した個人として授業に参加することで、自らが学んでいるという当事者意識を高め、より深く学ぼうとする意識を向上させる。 ○それぞれの教室においては、「間違える、わからない、質問する」が「当たり前」となるような雰囲気醸成され、学びが安全安心な場であることを約束する。					

			○「今はまだ、できないだけ」を教員が意識し、それぞれの学びの世界に導き、刺激し、能力を引き出すことで、生徒がクリエイティブに「何か」を見つけて、自分を変えていく力を認知する。 ○義務教育の9年間では、誰もが苦手と感ずる分野を持つ。高校生活スタートで誰もが必要とする基礎・基本の学びを導入し、高校での学びへの移行をスムーズにする。 ○ICTを有効に活用する。タブレット等を活用することで、自分の意見を伝達が苦手な生徒にとってもハードルが低くなり、自分との対話ができることから人との対話が可能になっていく。			
		「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	(短期的目標) 【「これまで」よりも「これから」を重視し、今あるものを良いと感じられ自分と相手の大切さを感じられる人を求める】 ○水戸南高校は一人一人の可能性の開花と、自己調整力の向上を目指している。“できないのではなく、今はまだ、できていないだけ”という想いから、生徒が本来持っている力を呼び起こし、自分の可能性や方向性を思い描けるように導いていく。「種は内に持っている。水が注がれれば花が咲く」という考えの下、生徒の発達や個性に寄り添う場であることを知ってほしい。 ○良いものを良いと思い、普通にあるものを大切に感じ、あたりまえにあるものの価値を考えられる人、今はまだ未完成でも、予測不能と言われる社会の中で、学ぶ楽しさを見つけようとする人、「自分の大切さ」と「相手の大切さ」をともに考え、自分のことも相手のことも大切に考えられる人に、本校に入学してもらいたい。 ○教員は、生徒一人一人の持つ能力と向き合って日々懸命に教育活動に取り組んでいる。生徒に安全と安心、そして安らぎを提供したいと考えている。 ○進学や就職で、さまざまな進路希望を持つ生徒が共存するのが水戸南高校の特色。水戸南高校を点数や偏差値等のモノサシで選ばずに、自分の感性と選択で本校に入学してもらいたい。			
評価項目		具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題	
教科	国語	国語学習の習慣を身に付けさせ、基礎学力の向上を図る。	・学習目標を明確にし、それに対応した課題を設定する。			
			・図書館の利用を促し、様々な文章に触れさせ、読む楽しさを味わわせる。			
		基礎的な言語表現能力を養い、それが他者との豊かな関係を作るものであることを理解させる。	・ICTを活用し、映像を文字文化理解の一助とする。			
			・プリントや新聞等を利用して、思考力、判断力を身に付けさせる。			
	地歴	日本及び世界の形成や文化について基礎的知識を定着させ、現代の諸問題を様々な視点から考察する能力の育成を図る。	・生徒各人の能力の把握に努め、個別指導を充実させる。			
			・実用的な文章に触れさせ、さまざまな言葉を身に付けることの重要性を確認させる。			
			・学習結果を機会あるごとにフィードバックし、意欲喚起に努める。			
	公民	現代社会のしくみと課題について理解し、よりよい社会づくりに自ら関わろうとする態度を養う。	・地理的事象について、ICTを活用するとともに、資料などを提示して興味関心を高め、グループ学習を通して理解を深める。			
			・歴史的事象について、ICTを活用して興味関心を高め、現代世界との関連性を考える。			
			・人々の生活を通じて、グローバル化する現代世界について理解を深める。			
			・記述問題を取り上げ、資料の読み取りや文章構成を通して思考力や表現力の育成を図る。			
			・ICTの活用により興味・関心を高め、学習意欲の向上に努める。			
			・現代の経済と国民福祉について、身近な問題を取り上げることにより考えを深める。			
			・法令遵守や人権尊重に関する事例について話し合うことにより、大切さを意識させる。			
			・国際社会における日本の課題について、新聞記事等を活用して理解を深める。			

教科	数 学	数学の必要性を理解させることで学習意欲を喚起し、基礎学力の定着ならびに向上を図る。	・学習内容を精選し、ＩＣＴを活用しながらわかる授業を心がける。			
			・授業の中で基本的な計算の演習を行い、計算力の向上を図る。			
			・一人一人の能力、意欲の違いを認め、自発的な態度を積極的に評価する。			
			・生徒が自宅でも学習出来るような補助教材やプリントを作成する。			
	理 科	社会の中で技術として使われている理科内容を想起し、興味をもたせ、学習意欲の向上を図る。	・中学校での指導内容を確認しながら発問し、対話形式の指導を工夫する。			
			・実験や観察を通して生徒の興味・関心を高め、学習意欲の向上に努める。			
			・人間生活に係る物質や現象等の説明では、ＩＣＴや視聴覚教材を活用し、理解を深める。			
	保 健 体 育	基礎体力の向上を図る。	・授業の始めと終わりに整列し挨拶をする。授業開始前には必ず準備運動等を行い、筋力や柔軟性を高めるとともに怪我の防止に努める。			
		健康的な生活習慣を身に付けさせる。	・ＩＣＴを活用し、生徒の興味・関心を高め、生涯を見据えた健康の在り方について早い時期からの生活習慣が大切であることを学ばせる。			
	芸 術	生涯にわたって芸術を愛好する心情を育てる。	・芸術の幅広い活動に取り組ませ、表現する喜びや達成感を味わわせるとともに、表現に対する意欲を引き出す。			
		芸術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。	・様々な優れた芸術作品に触れたり、芸術の諸能力を高めたりすることにより、感性を高め芸術に対する理解を深める。			
	外 国 語	基礎学力の向上を図る。	・ＩＣＴを活用し、必修修のコミュニケーション英語Ⅰの授業展開を工夫する。 ・限られた表現でも、自信をもって英語を話せるようにする。			
		一人一人の学習能力に合わせた指導を行う。	・発音、音読、聞き取りなどの時間をなるべく多く授業に取り入れ、生徒の口からたくさん英語を発話させる。 ・ＩＣＴを活用し、自らの考えを述べる発表演習を取り入れる。			
	家 庭	積極的に授業に参加する態度を育てる。	・授業課題の内容と実生活に生かせる知識と技術に関連させる指導の工夫を行う。			
			・授業課題を有効に活用し、生活を総合的にマネジメントする能力を高める。			
		レポート作成に対する指導を充実させる。	・返却のレポートのコメントを工夫する。			
			・課題レポート解答を自力で作成し、期日を守って提出することを促す。			
	情 報	情報化する社会に積極的に参画できる能力・態度を育む。	・実習を充実させ、情報活用実践力の確実な定着を図る。			
		情報モラル、知的財産の保護、情報安全に対する実践的な態度を育てる。	・情報ネットワーク上のルールやマナー、危険回避、人権侵害、著作権などの知的財産の保護などについての指導を充実させる。			
	商 業	簿記能力を高める。	・個別指導を中心に、演習とプリント学習を取り入れ、ＩＣＴを活用しながら自ら考え解決する力を高める。 ・簿記の学習を通し、合理的な考え方や整理する能力を養う。			
		経済活動にともなう法規や社会生活に関連の深い法規について学習する。	・私たちの生活が法と関わりが深いことと法が必要なことを理解させる。 ・基礎的・基本的な事項について具体的な事象を取り上げ、理解を深めさせる。			
			・様々な事例問題において、自ら考え判断する力を養う。			
		教育課程を検討する。	・新教育課程への移行期間に留意して、生徒が学びやすく、より学習効果を高めるためのカリキュラム編成に努める。			

教 務	シラバスと履修指導の充実に努める。	・生徒が活用しやすいシラバスの作成を工夫するとともに、履修指導を丁寧に行い、単位修得や卒業への意識を高める。			
	全般的なＩＣＴの計画的な整備を行う。	・ＧＩＧＡスクール構想に係る緊急メールやハード管理など、ＩＣＴ全般の計画的な整備を行う。			
	ＩＣＴを活用する。	・ＩＣＴを活用した分かりやすい授業の推進を行う。			
		・教育情報ネットワークの電子会議室を利用し、的確で効率的、効果的な校務ができるようにする。			
	情報発信による学校への理解を促進する。	・ホームページを利用して保護者・地域に対し積極的に情報を提供するとともに、緊急連絡掲示板に掲示することで生徒への迅速な情報伝達ができるようにする。 ・学校公開を計画的に実施して、本校に対する理解促進を図る。			
学習指導	自ら考え、積極的に学ぼうとする態度を養う。 基礎学力の定着とともに、進路実現に向けた主体的な学びを援助し学力の向上を図る。 ＩＣＴの活用	・授業の重要性を周知させるため、集会等を利用して説明する。 ・学習意欲を引き出せる指導方法や個に応じた体験的・問題解決的な学習の促進を目指す。 ・課題プリントなどを活用し学習目標を明確にし、授業の始めや終わりで授業内容の理解の確認をしながら、生徒一人一人の学習状況を把握し個に応じた指導の実践をする。 ・ＩＣＴを活用した分かりやすい授業展開をすることで、生徒に知的好奇心をもたらし工夫をする。			
	共感的理解をもって生徒理解を深め、教員と生徒との信頼に基づいた良い人間関係を築く。	・授業研究を通して、学習形態や指導方法を工夫し、学習指導を充実させる。			
		・進路希望実現を目標に年３回実力テストを実施する。また、生徒の取り組みを喚起するための工夫をする。			
		・登下校時や始業前などあらゆる機会を捉えて生徒への声かけをし、生徒理解に基づいた信頼関係を構築する。			
生徒指導 (特別活動)	共感的理解をもって生徒理解を深め、教員と生徒との良い人間関係を築く。 基本的生活習慣の確立や、規範意識などを育てる。	・「道徳」や「道徳プラス」、ＬＨＲ等を通して生徒自身が自らを振り返ることの重要性を説明する。 ・職員間で生徒の情報や問題を共有し、外部機関やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーと連携をとることで、問題の未然防止を心がけ、迅速な対応に努める。			
	学校行事を充実させ、集団への帰属意識を高め、公共の精神を養う。	・生徒会活動やＨＲ活動を活発に行い、協力して問題を解決しようとする態度を育てる。 ・ホームルーム等でキャリア・パスポートを活用し、主体的に自己のキャリア形成について考える姿勢を育てる。			
	本校の「いじめ防止基本方針」に基づき、いじめの防止に努め、実態把握およびいじめに対する措置を適切に行う。	・生徒の自己有用感等を高め、生徒から相談しやすい関係を構築し未然防止に努める。 ・保護者から相談しやすい関係を構築するとともに、いじめの早期発見に努める。 ・いじめ発生の際には、被害者の心のケアや加害者への指導を適切に行い、早期解消に努める。 ・保護者と密接に連絡を取るとともに、必要に応じて関係機関と連携して対応する。 ・情報モラルやいじめについての事例研究や校内研修などの教職員研修を適切に行う。			
保 健	基本的生活習慣を基に健康の保持増進に努める。	・健康診断等の受診率を向上させ、その結果から自己の健康と生活習慣についての関心を高めさせる。			

	学習環境の整備に努める。	・学校薬剤師との連携により環境衛生検査を実施し、学習しやすい環境を整える。			
進路指導	進路意識の向上を図り、卒業後の進路を主体的に考えて自ら決定できるようにさせる。 一人一人の生徒の状況や進路希望を把握し、個に応じた丁寧な指導に努める。	・各種進路行事を定期的実施して、進路意識を高める。 ・進路だよりの発行や生徒の実態に合った進路情報の提供により進路学習を充実させる。 ・進路アンケート・進路適性検査を実施する。 ・進路決定に活用できる効果的な進路資料を作成し生徒に理解させる。 ・個別面談の充実を図る。			
渉外	分かりやすく情報を発信し、保護者の理解を得て、各種行事への積極的な参加を求める。	・会報を発行し、本校の教育活動やPTA、特に保護者の活動を広く伝える。			
		・保護者が学校行事を参観できるようにする。			
		・会員相互の親睦を図るために、参加しやすい行事や研修旅行等を企画する。			
第1年次	生徒各々が自らの力で充実した学校生活を送れるようにする。	・基本的な生活習慣を身に付け、けじめのある学校生活が送れ、生徒同士がお互いに認めあえるような人間関係が築けるように努める。			
		・生徒との信頼関係を築き、安心して登校できる環境を整える。			
		・生徒個別面談を年4回実施し、卒業後の進路についての自覚を促す。			
		・問題のある生徒に対して、職員間で情報を共有し、対処法を考える。			
		・家庭（保護者）との連絡を密にし、学校生活が円滑に送れるように協力を得る。			
	生徒の主体性を重んじ、自立への模索を援助する。	・清掃や授業の準備、後片付け等の役割分担を通し、生活協同体としてのまとまりを自覚させ、他者尊重の態度を身に付けさせる。 ・「道徳」、クラスの係、生徒会活動、学校行事、生活体験発表会、アルバイト等を指導の機会を捉え、主体的な生き方を考えさせる。			
第2年次	他者を理解しながら、自立的・自発的な行動がとれるよう自覚を促す。進路に関する興味・関心を高める。	・様々な生徒がいることを理解させ、互いに思いやりをもって学校生活を送るように指導する。			
		・基本的な生活習慣を身に付けて自律した行動ができるようにさせる。			
		・円滑な単位の修得へ向けて、履修状況を把握させ、積極的に授業に取り組む態度を養成する。 ・進路指導部と連携し、進路情報の提供を充実させ、卒業後の進路をイメージさせる工夫をする。			
第3年次	希望の進路が実現できるように意識を高める。	・外部機関との連携を図り、進路ガイダンス、三者面談やLHRを活用して主体的に自己の進路を考えていけるよう支援する。			
	社会を構成する一員であることを自覚させる。	・あらゆる場面を利用してコミュニケーション能力を養い、社会の一員として責任ある行動がとれる人間の形成を目指す。			

※評価基準： A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない